

## 北海道がんセンター (北海道札幌市)

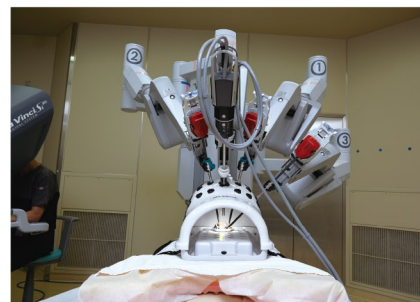


許可病床数 520 床

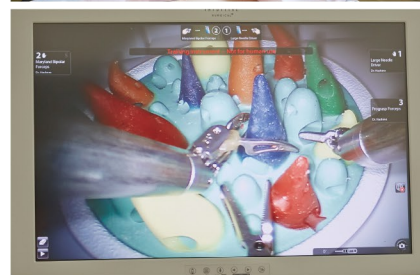
都道府県がん診療連携拠点病院として道内のがん診療を担う中核施設。最新機器の設置、治験による新しい抗がん剤の開発協力などにより最前線のがん治療を目指している。現在、建て替え工事が進行中で、より充実したがん治療の拠点としてリニューアル予定。



診察中の高橋副院長。がんになるリスクを告知するというデリケートな対応が求められるが、過度な不安を与えないように笑顔を保つ。「遺伝子の異常はすべての人に起こり得ることで、変異の有無を調べることは安心にもつながりません。一方でデリケートな問題だけに、相談に来た方に寄り添い、専門的なアドバイスができるカウンセラーの役割も重要です」と力説する。そんな高橋副院長は今年、洞爺湖を1周する洞爺湖マラソンを完走



ダヴィンチ本体と助手用のモニター画面。アームは4本あり、1本はカメラ用。残る3本の先端にある鉗子进行操作して手技を行う。モニター画面では平面に見えるが、カメラが複眼のため、操作している医師には立体に見える



患者・家族総合支援センター「暖だん(だんだん)」の内部。「だんだん」には愛媛県の方で「ありがとう」という意味があり、センターを訪れる人が暖かい心になれるようにという願いも込められている

## 四国がんセンター (愛媛県松山市)



許可病床数 368 床

全国で最初の地域がん診療拠点病院の指定を受けた歴史をもつ、四国におけるがん治療の拠点。診療・研究・教育・情報発信を4本柱とするがん専門病院。2013年に開設した患者・家族総合支援センター「暖だん」は充実した設備を誇る。



スタッフによるカンファレンス。患者さんの状態や検査結果などの情報を定期的に共有する



敷地内にある「陽だまりの径(みち)」2016年の全面建て替えに伴い整備された小径で、患者さんやご家族が気分転換できる環境も整えられている



頭部を固定するマスク。放射線を当てている最中に頭が動かないよう、患者さん一人ひとり、頭部の形状に合わせてオリジナルのマスクが作られる

## 九州がんセンター (福岡県福岡市)



許可病床数 411 床

九州唯一のがん診療専門施設。「温かく思いやりのある、最良のがん医療」を提供し、スタッフを含めたすべての人に優しい日本をリードするがん専門病院を目指している。症例が少ないがんにも対応している。

今回は「都道府県がん診療連携拠点病院」にスポットをあてて3つの病院を紹介しておりますが、がん診療連携拠点病院に指定されているNHOの病院は数多くあります。過去のNHO PRESS(第6号)にて指定を受けている病院を取り上げておりますので併せてご覧ください。

「NHO PRESS」はインターネットで、バックナンバーをご覧いただけます。▶▶▶  
[https://www.hosp.go.jp/nho\\_press.html](https://www.hosp.go.jp/nho_press.html)



# スペシャリストの素顔

現場で活躍するさまざまな職種をご紹介します。

## 医学物理士

一般財団法人医学物理士認定機構による認定資格。放射線治療が安全で的確に実施できるよう、放射線治療計画の最適化や検証などを行う専門職。

九州がんセンター  
医学物理士(診療放射線技師) 片平 俊善さん



國武直信医師(放射線治療科医長)と検査画像を確認する片平技師

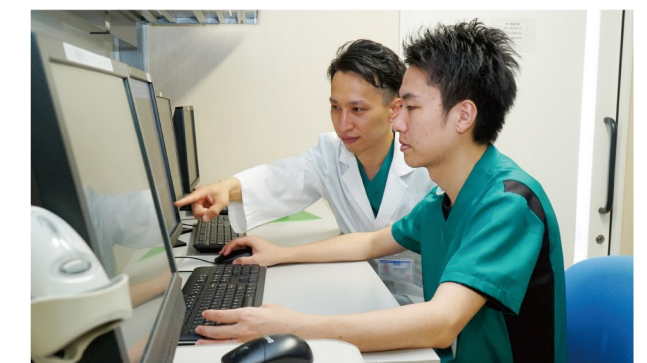
## 役割は放射線治療の適切な管理

放射線治療は医師の指示のもと、診療放射線技師が検査や治療を行います。ところが、放射線治療機器の発展に伴い、さらに高い効果と安全性を確保するためには、放射線治療計画(放射線の大きさ、どのような方向・角度で照射する等の計画)の最適化や検証が不可欠です。これらを物理工学系と医学系の専門知識を併せ持つ私たち医学物理士が担うことで、安全で効果の高い放射線治療を可能にしています。



## まだまだ少ない日本の実情

日本では医学物理士の資格を取得している人はまだまだ少なく(2018年5月2日現在、1,132名)、認知度も低いです。ただ、現在は大学院に医学物理士養成コースが設けられている場合もあり、徐々に医学物理士を育てる環境が整ってきています。今後、全国の病院に医学物理士の仲間が増えていけば、安全で効果の高い放射線治療をみなさんに提供できると考えています。



「大きな機械を目にすると緊張する患者さん多いので、細かい声かけを意識しています」と話す片平技師の趣味はサッカー観戦。プレミアリーグのリヴァプールのファンで、海外観戦が夢だとか